

事業の背景・目的

サクラ等の樹木に被害を及ぼし、広域に拡散する恐れのあるクビアカツヤカミキリの防除を邑楽館林地域で連携して推進するもの。当協議会で作成した『クビアカツヤカミキリ被害レベル洞察マニュアル』を用いて防除方法を検討し、被害状況が深刻な樹木については伐倒を行い、被害拡大を防止する。また、邑楽館林内7校のうち、既にクビアカツヤカミキリの知識を有する大泉高校、館林商工高校、館林高校の3校を中心に研究活動の支援や生徒の意見を取り入れた周知・啓発を実施する。

事業の内容

○邑楽館林地域の高校との連携事業

【館林高校】

- ・校内新聞の作成・配布
- ・成虫の捕殺体験の実施

【大泉高校】

- ・防除対策の調査研究
- ・不快感の少ない捕殺方法の確立
- ・樹幹注入薬剤の授与式
- ・パネル展示

【館林商工高校】

- ・駆除啓発用動画の作成
- ・周知用資材の作成・配布
- ・啓発ポスターの作成・配布
- ・防除活動の体験



○被害木の伐倒事業
『クビアカツヤカミキリ被害レベル洞察マニュアル』を参考に、公共施設における樹木ごとの被害レベルを調査し、被害レベルの高い樹木を伐倒。

○その他防除事業

- ・邑楽館林地域内の被害調査
→被害状況について協議会で意見交換を行い、増加の要因、調査方法などの情報を共有した。
- ・専門家による基調講演の実施
→館林地区農業指導センターの職員を招き、基調講演を実施。

得られた成果

○邑楽館林地域の高校等の連携

→クビアカツヤカミキリ記事を高校の校内新聞に載せたほか、高校生による防除活動が地元の新聞に掲載されるなど地域住民への周知につながったと考える。また、作製した周知用のぼり旗は来年度クビアカツヤカミキリの成虫が発生する時期に地域内に設置することで波及効果が得られると考えられる。また、高校との情報交換を通じ、伐採後に新たにサクラを増やす取り組みとして、クビアカツヤカミキリの被害に強い樹木の選定を進め、植栽を目指すことなど来年度の目標も生まれた。

○被害木の伐倒事業・その他防除事業

→基調講演の結果を踏まえ、『クビアカツヤカミキリ被害レベル洞察マニュアル』の更新を行った。マニュアルを用いて伐倒対象木を選定し、被害レベルの高い樹木45本のうち、36本を伐倒した。来年度はさらに効果的な防除対策を進める。